

資料 1

令和 6 年度原子炉管理・放射線管理報告書

令和7年6月13日

川崎市原子力施設安全対策会議幹事会事務局長 殿

住 所 川崎市川崎区浮島町4番1号
事 業 所 名 東芝エネルギーシステムズ株式会社
原子力技術研究所
責任者氏名 所長 大村 恒雄

令和6年度 原子炉管理・放射線管理報告書

川崎市原子力施設安全対策会議要綱第5条第2項の規定により、別紙のとおり報告します。

管理情報
C-NCA-281

工場又は事業所	名 称	東芝エネルギー・システムズ株式会社 原子力技術研究所	
	所 在 地	川崎市川崎区浮島町4番1号	
連絡先	名 称	東芝エネルギー・システムズ株式会社 原子力技術研究所	
	所 在 地	川崎市川崎区浮島町4番1号	電 話 番 号
	連絡員の氏名	[REDACTED]	所属部課名 放射線管理室

1. 原子炉管理について

原子炉名及び最大熱出力		東芝臨界実験装置(NCA), 200W		
原子炉の運転時間と熱出力	項目	運転時間(h)	熱出力	
	月		平均(W)	最大(W)
	4月	—	—	—
	5月	—	—	—
	6月	—	—	—
	7月	—	—	—
	8月	—	—	—
	9月	—	—	—
	10月	—	—	—
	11月	—	—	—
	12月	—	—	—
	1月	—	—	—
	2月	—	—	—
	3月	—	—	—
	合計	—	—	—
原子炉の利用状況(利用目的)		廃止措置中 (令和3年 4月28日 廃止措置計画認可)		
核燃料物質の在庫量(年度末在庫量)				
原子炉利用以外の核燃料物質	利用状況(利用目的)	分離分析等の化学実験及び物性測定・研究		
	在庫量(年度末在庫量) *1	[REDACTED]		

核燃料物質防護上の情報が含まれておりますので取扱注意願います。

*1 : 報告年度に実施した査定の時点の在庫量です。

2. 放射線管理について

(1) 気体廃棄物・液体廃棄物の排出放射能濃度

測定の箇所		4月～6月		7月～9月	
		平均値 (Bq/cm ³)	最高値 (Bq/cm ³)	平均値 (Bq/cm ³)	最高値 (Bq/cm ³)
排気口又は 排気監視設備	排気口に設置し た排気監視設備	ダスト $\beta+\gamma$:検出限界以下 α :検出限界以下 ガス :検出限界以下 検出限界 ダスト $\beta+\gamma:4.1 \times 10^{-8}$ $\alpha:4.4 \times 10^{-9}$ ガス : 2.0×10^{-3}	ダスト $\beta+\gamma$:同左 α :同左 ガス :同左	ダスト $\beta+\gamma$:検出限界以下 α :検出限界以下 ガス :検出限界以下 検出限界 ダスト $\beta+\gamma:4.1 \times 10^{-8}$ $\alpha:4.4 \times 10^{-9}$ ガス : 2.0×10^{-3}	ダスト $\beta+\gamma$:同左 α :同左 ガス :同左
排水口又は 排水監視設備	希釀槽	放出せず		放出せず	
		放出日	放出量 (m ³)	濃度 (Bq/cm ³)	放出日
		—	—	—	放出量 (m ³)

測定の箇所		10月～12月		1月～3月	
		平均値 (Bq/cm ³)	最高値 (Bq/cm ³)	平均値 (Bq/cm ³)	最高値 (Bq/cm ³)
排気口又は 排気監視設備	排気口に設置し た排気監視設備	ダスト $\beta+\gamma$:検出限界以下 α :検出限界以下 ガス :検出限界以下 検出限界 ダスト $\beta+\gamma:4.1 \times 10^{-8}$ $\alpha:4.4 \times 10^{-9}$ ガス : 2.0×10^{-3}	ダスト $\beta+\gamma$:同左 α :同左 ガス :同左	ダスト $\beta+\gamma$:検出限界以下 α :検出限界以下 ガス :検出限界以下 検出限界 ダスト $\beta+\gamma:4.1 \times 10^{-8}$ $\alpha:4.4 \times 10^{-9}$ ガス : 2.0×10^{-3}	ダスト $\beta+\gamma$:同左 α :同左 ガス :同左
排水口又は 排水監視設備	希釀槽	$<2.9 \times 10^{-4}$		放出せず	
		放出日	放出量 (m ³)	濃度 (Bq/cm ³)	放出日
		R6.11.15 R6.12.16	4 10	$<3.0 \times 10^{-4}$ $<2.8 \times 10^{-4}$	放出量 (m ³)

(2) 固体廃棄物の種類、保管量

種類	濃縮溶液	フィルタースラッジ	付換樹脂	雜固体廃棄物	その他	合計	備考(保管場所)
200mlドム缶 換算本数	0本 相当	0本 相当	7. 6本 相当	34. 1本 相当	10. 9本 相当	52. 6本 相当	廃棄物処理棟保管室

(3) 敷地境界における線量当量率(単位: $\mu\text{Sv}/\text{h}$) [注: 平均値 パックグラウンドを含む]

測定場所	線量当量率	測定場所	線量当量率	測定場所	線量当量率	測定場所	線量当量率
東側境界	0. 05	南側境界	0. 06	西側境界	0. 06	北側境界	0. 05

(4) 被ばく管理状況 (放射線業務従事者の1年間の実効線量分布)

線量 放射線 業務従事者	線量分布(人)				
	0.1mSv以下	0.1mSvを超える 1mSv以下	1mSvを超える 2mSv以下	2mSvを超える 5mSv以下	5mSvを超える 10mSv以下
職員	21	2	0	0	0
その他	40	1	0	0	0
合計	61	3	0	0	0

線量 放射線 業務従事者	線量分布(人)				
	10mSvを超える 15mSv以下	15mSvを超える 20mSv以下	20mSvを超える 25mSv以下	25mSvを超える 30mSv以下	30mSvを超える 35mSv以下
職員	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0

線量 放射線 業務従事者	線量分布(人)				
	35mSvを超える 40mSv以下	40mSvを超える 45mSv以下	45mSvを超える 50mSv以下	50mSvを超えるもの	合計
職員	0	0	0	0	23
その他	0	0	0	0	41
合計	0	0	0	0	64

線量 放射線 業務従事者	総線量 (人・mSv)	平均線量 (mSv)	最大線量 (mSv)
職員	0.4	0.0	0.2
その他	0.2	0.0	0.2
合計	0.6	0.0	

令和7年6月13日

川崎市原子力施設安全対策会議幹事会事務局長 殿

住 所 川崎市川崎区浮島町4番1号
事 業 所 名 東芝エネルギー・システムズ株式会社
研究炉管理センター
責任者氏名 所長 大村 恒雄

令和6年度 原子炉管理・放射線管理報告書

川崎市原子力施設安全対策会議要綱第5条第2項の規定により、別紙のとおり報告します。

別紙

工場又は事業所	名 称	東芝エネルギー・システムズ株式会社 研究炉管理センター	
	所 在 地	川崎市川崎区浮島町4番1号	
連絡先	名 称	東芝エネルギー・システムズ株式会社 研究炉管理センター	
	所 在 地	川崎市川崎区浮島町4番1号	電 話 番 号 [REDACTED]
	連絡員の氏名	所属部課名 放射線管理室	

1. 原子炉管理について

原子炉名及び最大熱出力		東芝 教育訓練用原子炉 (TTR-1), 100kW		
原 子 炉 の 運 転 時 間 と 熱 出 力	項 目	運 転 時 間 (h)	熱 出 力	
	月		平 均 (kW)	最 大 (kW)
	4 月	—	—	—
	5 月	—	—	—
	6 月	—	—	—
	7 月	—	—	—
	8 月	—	—	—
	9 月	—	—	—
	10 月	—	—	—
	11 月	—	—	—
	12 月	—	—	—
	1 月	—	—	—
	2 月	—	—	—
	3 月	—	—	—
	合 計	—	—	—
原子炉の利用状況(利用目的)		廃止措置中 (平成13年 8月 8日 解体届提出) (平成19年 5月22日 廃止措置計画認可)		
核燃料物質の在庫量(年度末在庫量)				
原子炉利用 以外の 核燃料物質	利 用 状 況(利用目的)	利 用 な し		
	在庫量(年度末在庫量)	[REDACTED]		

2. 放射線管理について

(1) 気体廃棄物・液体廃棄物の排出放射能濃度

測定の箇所		4月～6月		7月～9月	
		平均値 (Bq/cm ³)	最高値 (Bq/cm ³)	平均値 (Bq/cm ³)	最高値 (Bq/cm ³)
排気口又は 排気監視設備	排気口に設置し た排気監視設備	ダスト $\beta+\gamma$:検出限界以下 α :検出限界以下 検出限界 ダスト $\beta+\gamma: 1.2 \times 10^{-8}$ $\alpha: 1.2 \times 10^{-9}$	ダスト $\beta+\gamma$:同左 α :同左	ダスト $\beta+\gamma$:検出限界以下 α :検出限界以下 検出限界 ダスト $\beta+\gamma: 1.2 \times 10^{-8}$ $\alpha: 1.2 \times 10^{-9}$	ダスト $\beta+\gamma$:同左 $\alpha: 1.8 \times 10^{-9}$
排水口又は 排水監視設備	希釀槽	放出せず	—	放出せず	—
		放出日	放出量 (m ³)	濃度 (Bq/cm ³)	放出日
		—	—	—	放出量 (m ³)

測定の箇所		10月～12月		1月～3月	
		平均値 (Bq/cm ³)	最高値 (Bq/cm ³)	平均値 (Bq/cm ³)	最高値 (Bq/cm ³)
排気口又は 排気監視設備	排気口に設置し た排気監視設備	ダスト $\beta+\gamma$:検出限界以下 α :検出限界以下 検出限界 ダスト $\beta+\gamma: 1.7 \times 10^{-8}$ $\alpha: 1.2 \times 10^{-9}$	ダスト $\beta+\gamma$:同左 α :同左	ダスト $\beta+\gamma$:検出限界以下 α :検出限界以下 検出限界 ダスト $\beta+\gamma: 1.7 \times 10^{-8}$ $\alpha: 7.3 \times 10^{-10}$	ダスト $\beta+\gamma$:同左 α :同左
排水口又は 排水監視設備	希釀槽	<2.7×10 ⁻⁴	<2.7×10 ⁻⁴	放出せず	—
		放出日	放出量 (m ³)	濃度 (Bq/cm ³)	放出日
		R6.12.27	17	<2.7×10 ⁻⁴	—

(2) 固体廃棄物の種類、保管量

種類	濃縮堿液	フィルタースラッシュ	付ソ交換樹脂	雑固体廃棄物	その他	合計	備考(保管場所)
200ドルドム缶 換算本数	0本 相当	0本 相当	10.4本 相当	49.1本 相当	16.6本 相当	76.1本 相当	廃棄物処理棟保管室 ナトリム廃棄物保管室

原子炉室に解体物を200ドルドム缶換算で112本保管している。

(3) 敷地境界における線量当量率(単位: $\mu\text{Sv}/\text{h}$) [注: 平均値 バックグラウンドを含む]

測定場所	線量当量率	測定場所	線量当量率	測定場所	線量当量率	測定場所	線量当量率
東側境界	0.05	南側境界	0.06	西側境界	0.06	北側境界	0.05

(4) 被ばく管理状況（放射線業務従事者の1年間の線量分布）

線量 放射線 業務従事者	線量分布(人)				
	0.1mSv以下	0.1mSvを超える 1mSv以下	1mSvを超える 2mSv以下	2mSvを超える 5mSv以下	5mSvを超える 10mSv以下
職 員	27	0	0	0	0
その他	37	0	0	0	0
合 計	64	0	0	0	0

線量 放射線 業務従事者	線量分布(人)				
	10mSvを超える 15mSv以下	15mSvを超える 20mSv以下	20mSvを超える 25mSv以下	25mSvを超える 30mSv以下	30mSvを超える 35mSv以下
職 員	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0

線量 放射線 業務従事者	線量分布(人)				
	35mSvを超える 40mSv以下	40mSvを超える 45mSv以下	45mSvを超える 50mSv以下	50mSvを超えるもの	合 計
職 員	0	0	0	0	27
その他	0	0	0	0	37
合 計	0	0	0	0	64

線量 放射線 業務従事者	総線量 (人・mSv)	平均線量 (mSv)	最大線量 (mSv)
職 員	0. 0	0. 0	0. 0
その他	0. 0	0. 0	0. 0
合 計	0. 0	0. 0	

令和 6 年度 原子炉管理・放射線管理等報告書

令和 7 年 6 月 5 日

川崎市原子力施設安全対策会議幹事会事務局長 殿

住 所 神奈川県川崎市麻生区王禅寺1022番地
 事業所名 株式会社日立製作所 王禅寺センタ
 責任者氏名 センタ長 大塚巳喜男

川崎市原子力施設安全対策会議要綱第5条第2項の規定により、次のとおり報告します。

工場又は事業所	名 称	株式会社日立製作所 王禅寺センタ	
	所 在 地	神奈川県川崎市麻生区王禅寺1022番地	
連絡先	名 称	株式会社日立製作所 王禅寺センタ	
	所 在 地	神奈川県川崎市麻生区王禅寺1022番地 電話番号 044-966-8211	
	連絡員の氏名	[REDACTED]	所属部課名 管理グループ

1. 原子炉等の管理について

原子炉名及び最大出力		H T R 100 kW		
原子炉運転時間と熱出力	項目	運転時間(h)	熱出力	
	月		平均(kW)	最大(kW)
	4月			
	5月			
	6月			
	7月			
	8月			
	9月			
	10月			
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			
	3月			
	合計			
原子炉の利用状況(利用目的)		原子炉施設廃止措置中		
核燃料物質の在庫量(年度末在庫量)		[REDACTED]		
原子炉利用以外の核燃料物質	利用状況(利用目的)			
	在庫量(年度末在庫量)			

2. 放射線管理について

(1) 気体廃棄物・液体廃棄物の排出放射能濃度

測定の箇所		令和6年4月～6月		令和6年7月～9月	
		平均値	最高値	平均値	最高値
排気口又は 排気監視設備	仮設の排気 設備に付隨 する排気監視 設備				
排水口又は 排水監視設備	使用済燃料 保管プール 及び 希釀槽	放出日	放出量	濃度	放出日
					放出量

測定の箇所		令和6年10月～12月		令和7年1月～3月	
		平均値	最高値	平均値	最高値
排気口又は 排気監視設備	仮設の排気 設備に付隨 する排気監視 設備				
排水口又は 排水監視設備	使用済燃料 保管プール 及び 希釀槽	放出日	放出量	濃度	放出日
					放出量

(2) 固体廃棄物の種類、保管量

種類	濃縮廃液	フィルタースラッジ	イオン交換樹脂	雑固体廃棄物	その他	合計	備考
200リットラム缶 換算本数	一本	一本	一本	770本	一本	770本	第4倉庫
	一本	94本	一本	195本	一本	289本	第5倉庫

(3) 敷地境界における線量率(単位: $\mu\text{Sv}/\text{h}$)

測定場所	線量率	測定場所	線量率	測定場所	線量率	測定場所	線量率
事業所 北側境界	0.062	—	—	—	—	—	—

備考: 数値は'バックグラウンド'を含む12ヶ月の平均値(シンチレーションサーベイメータによる測定)

(4) 被ばく管理状況(放射線業務従事者の1年間の線量分布)

・原子炉に係る者

1年間の線量(mSv)	0.1 以下	0.1を超える 1 以下	1を超える 2以下	2を超える 5以下	5を超える 10以下	10を超える 15以下
放射線業務従事者数(人)	13	0	0	0	0	0

1年間の線量(mSv)	15を超える 20以下	20を超える 25以下	25を超える 30以下	30を超える 35以下	35を超える 40以下	40を超える 45以下
放射線業務従事者数(人)	0	0	0	0	0	0

1年間の線量(mSv)	45を超える 50以下	50を超えるもの	計
放射線業務従事者数(人)	0	0	13

・原子炉以外に係る者

1年間の線量(mSv)	0.1 以下	0.1を超える 1 以下	1を超える 2以下	2を超える 5以下	5を超える 10以下	10を超える 15以下
放射線業務従事者数(人)	0	0	0	0	0	0

1年間の線量(mSv)	15を超える 20以下	20を超える 25以下	25を超える 30以下	30を超える 35以下	35を超える 40以下	40を超える 45以下
放射線業務従事者数(人)	0	0	0	0	0	0

1年間の線量(mSv)	45を超える 50以下	50を超えるもの	計
放射線業務従事者数(人)	0	0	0

令和6年度 原子炉管理・放射線管理等報告書

令和7年6月11日

川崎市原子力施設安全対策会議幹事会幹事長 殿

住 所 神奈川県川崎市麻生区玉禅寺971番地
 事業所名 東京都市大学原子力研究所
 責任者氏名 所長 佐藤 [REDACTED]

川崎市原子力施設安全対策会議要綱第5条第2項の規定により、次のとおり報告します。

工場又は事業所	名 称	東京都市大学原子力研究所
	所 在 地	神奈川県川崎市麻生区玉禅寺971番地
連絡先	名 称	東京都市大学原子力研究所
	所 在 地	神奈川県川崎市麻生区玉禅寺971番地 電話番号(044-966-6131)
	連絡員の氏名	[REDACTED] 所属部課名(原子炉施設管理室)

1. 原子炉等の管理について

原子炉名及び最大熱出力		武藏工大炉・100kW _t		
原子炉の運転時間と熱出力	項目	運転時間(h)	熱出力	
	4月	—	平均(kW)	最大(kW)
	5月	—	—	—
	6月	—	—	—
	7月	—	—	—
	8月	—	—	—
	9月	—	—	—
	10月	—	—	—
	11月	—	—	—
	12月	—	—	—
	1月	—	—	—
	2月	—	—	—
	3月	—	—	—
合 計		—	—	—
原子炉の利用状況(利用目的)		原子炉施設廃止措置中		
核燃料物質の在庫量(年度末在庫量)		[REDACTED]		
原子炉利用以外の核燃料物質	利用状況(利用目的)	当該期間中、利用なし		
	在庫量(年度末在庫量)	[REDACTED]		

2. 放射線管理について

(1) 気体廃棄物・液体廃棄物の排出放射能濃度

測定の箇所		4月～6月		7月～9月	
		平均値(Bq/cm ³)	最高値(Bq/cm ³)	平均値(Bq/cm ³)	最高値(Bq/cm ³)
排気口 又は 排気監視 設備	ガス ¹⁾ (排気筒)				
	ダスト (排気筒)	放出なし	放出なし	$<1.4 \times 10^{-10}^{*, 2)}$	$<1.4 \times 10^{-10}^{*, 2)}$
排水口 又は 排水監視 設備	廃棄水溶液 ³⁾ (廃液貯槽)	放出日	放出量(m ³)	濃度(Bq/cm ³)	放出日
					放出量(m ³)

測定の箇所		10月～12月		1月～3月	
		平均値(Bq/cm ³)	最高値(Bq/cm ³)	平均値(Bq/cm ³)	最高値(Bq/cm ³)
排気口 又は 排気監視 設備	ガス ^① (排気筒)				
	ダスト (排気筒)	放出なし	放出なし	放出なし	放出なし
排水口 又は 排水監視 設備	廃棄水溶液 ^③ (廃液貯槽)	放出日	放出量(m ³)	濃度(Bq/cm ³)	放出日
					放出量(m ³)

* : 「<」の右側は、検出限界値を示しその値は極微量の放射能まで測定できるように設定しているが、測定結果は、その数値以下であり有意な放射能量でないことを示している。

1):平成19年6月6日付けの廃止措置計画の認可に基づき、屋外管理用設備である排気モニタ（ガスモニタ）は機能を停止した。

2):定期事業者検査に係る、排気設備の性能検査を行った際のダストの放射能濃度である。

3) 平成22年2月25日付の廢止措置計画の変更認可に基づき、液体廢棄物の廃棄設備は停止し、その後

平成23年9月16日付の廃止措置計画の変更認可に基づき、併せて施設の将来計画は機能を停止して、この後同設備は解体撤去し、平成24年3月に完了した。

(2) 固体廃棄物の種類・保管量

(2) 固体廃棄物の種類、保管量						
種類	濃縮廃液	フィルタースラッグ ¹⁾	イオン交換樹脂	雑固体廃棄物	その他	合計 ³⁾
200ト ²⁾ ム缶 換算本数	0	7 ²⁾	2	3	0	12本

1):平成23年9月16日付の廃止措置計画の変更認可に基づき、固体廃棄物は固体廃棄物貯蔵庫からその保管場所である

原子炉室内に平成23年11月18日に移動し、固体廃棄物貯蔵庫は解体撤去した。

2): 平成27年度の定期自主検査において、気体廃棄物の廃棄施設で使用しているフィルタを新規に交換したことにより、

ドラム缶7本相当の廃棄物が発生した。

3):この他に廃止措置に係る解体撤去物等をドラム缶等に収容し、原子炉室にて保管している。その量は2000ドラム缶換算で107本相当である。

(3) 敷地境界における線量率 [単位: $\mu\text{Sv}/\text{h}$]

測定場所	線量率	測定場所	線量率	測定場所	線量率	備考
施設南側	0.07	施設西側	0.07	施設北側	0.06	年2回（9月、3月）測定を行い、その2回の平均値を記載。

(4) 被ばく管理状況(放射線業務従事者の1年間の線量分布)

(4) 仮謹、看護状

・原子炉以外に係わる者